



## 女性学研究センター年次報告・2020年度

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-04-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10466/00017331">http://hdl.handle.net/10466/00017331</a>

## 女性学研究センター年次報告・2020年度

### 1. 運営体制

所長 牧岡省吾（人間社会システム科学研究科長）

主任 内藤葉子

副主任 児島亜紀子

『女性学研究』編集委員長 熊安貴美江

『女性学研究』編集委員 児島亜紀子、宮脇幸生

共同研究員 青木賜鶴子、伊藤良子、上村隆広、工藤宏司、熊安貴美江、田間泰子、東優子、福田珠己、宮脇幸生、楊眞淑

学外研究員 阿久澤麻理子（大阪市立大学）、浅井美智子（元大阪府立大学教授）、足立眞理子（お茶の水女子大学名誉教授）、伊田久美子（大阪府立大学名誉教授）、木村涼子（大阪大学）、高岡尚子（奈良女子大学）、古久保さくら（大阪市立大学）、堀江珠喜（大阪府立大学名誉教授）、村田京子（大阪府立大学名誉教授）、山中京子（大阪府立大学名誉教授）

[運営委員]

委員長 牧岡省吾（所長）

副委員長 内藤葉子（主任）

運営委員 児島亜紀子（副主任）、真嶋由貴恵（現代システム科学専攻）、ケイン・ケビン（人間社会学専攻言語文化学分野）、酒井隆史（人間社会学専攻人間科学分野）、木曾陽子（人間社会学専攻社会福祉学分野）

事務職員 伊藤ゆきこ

### 2. 授業

#### ・大学院科目

「ジェンダー研究特論A」（半期2単位。東優子）

「同B」（半期2単位。田間泰子）

「同C」（半期2単位。内藤葉子）

- 「同D」(半期2単位。児島亜紀子)  
 「同E」(半期2単位。内藤葉子)  
 「ジェンダー研究特別演習Ⅰ」「同Ⅱ」(半期各2単位。東優子他)  
 「家族社会学特論」(半期2単位。田間泰子)
- 専門科目 (現代システム科学域、地域保健学域)
    - 「ジェンダーと社会」(半期2単位。巽真理子)
    - 「家族社会学」(半期2単位。田間泰子)
    - 「教育福祉の諸問題B (性と人権)」(半期2単位。東優子)
    - 「ケアリング論」(半期2単位。児島亜紀子他)
    - 「多文化共生の思想」(半期2単位。内藤葉子)
    - 「共生社会とジェンダー」(集中講義。堀江有里)
  - 教養科目 (機構提供科目)
    - 「ジェンダー論への招待」(半期2単位。熊安貴美江・内藤葉子・伊田久美子(ゲスト)・工藤宏司・酒井隆史・福田珠己・児島亜紀子・田間泰子)
    - 「ジェンダーと現代社会」(半期2単位。伊藤良子)

### 3. 第24期女性学講演会

「性暴力——その後を生き抜く人たちと共に」

コーディネーター：内藤葉子 (大阪府立大学准教授、女性学研究センター主任)  
 伊藤良子 (大阪府立大学講師)

第1回 (2020年11月1日 オンライン開催)

講演1 「性暴力被害アイデンティティーズ——性暴力被害にあうことをめぐる語りの分析から」

講師：伊藤良子 (大阪府立大学講師)

講演2 「LGBTIQと性暴力——想定されない“生き抜く”人たちと共に」

講師：岡田実穂 (レイプクライシス・ネットワーク代表、Broken Rainbow-japan理事)

第2回 (2020年11月15日 オンライン開催)

講演1 「性暴力と司法——なぜ被害者の視点が理解されないのか」

講師：手嶋昭子 (京都女子大学教授)

講演2 「性暴力——その後を生きる」

講師：中島幸子（NPO法人レジリエンス代表）

#### 4. 女性学コロキウム

第1回 村田京子名誉教授退職記念講演

「フランス文学とジェンダー」

\*大阪府立大学人間社会システム科学研究科との共催

\*新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から昨年度の開催を見合わせ、7月31日に大阪府立大学I-siteなんばでの開催を予定していたが、対面形式の講演のため、ウイルス感染拡大の状況に鑑みて中止となった。

第2回 「アーレントとエムケ、共生の作法」

(2021年2月10日 オンライン開催)

講師：矢野久美子（フェリス女学院大学教授）

\*2020年度人間社会システム科学研究科人間科学分野共同研究事業「ジェンダーと共生に関する研究プロジェクト」との共催

第3回 「分断されない女たち——ほどほどに、誰かとつながり、生きのびるために」

(2021年2月27日 オンライン開催)

講師：荒木菜穂（大阪府立大学客員研究員）

第4回 「R. ブライドッティ『ポストヒューマン——新しい人文学に向けて』を読む」

(2021年3月8日 オンライン開催)

講師：兎島亜紀子（大阪府立大学教授、女性学研究センター副主任）

\*2020年度人間社会システム科学研究科人間科学分野共同研究事業「ジェンダーと共生に関する研究プロジェクト」との共催

第5回 田間泰子教授退職記念講演会

「『たまさか』を考える——命の重さと私の家族社会学——」

(2021年3月25日 オンライン開催)

\*大阪府立大学人間社会システム科学研究科主催、女性研究者支援センターとの共催

## 5. 男女共同参画事業

シンポジウム「性暴力をめぐる理解の「歪み」を問い直す」

(2020年11月8日 オンライン開催)

コーディネーター：古久保さくら（大阪市立大学人権問題研究センター長）

内藤葉子（大阪府立大学准教授、女性学研究センター主任）

「性暴力被害者に関する神話を打ち破る」

講師：周藤由美子（ウィメンズカウンセリング京都）

「性暴力はどのように理解、解釈されてきたのか」

講師：牧野雅子（龍谷大学・犯罪学研究センター研究員）

\*大阪市立大学人権問題研究センター、一般財団法人アジア・太平洋人権情報センター（ヒューライツ大阪）との共催

\*新型コロナウイルス感染拡大防止のため、昨年度の開催を見合わせ、今年度オンラインでの開催となった。

## 6. 図書・文献資料の収集

例年どおり、外国語文献資料ならびに新刊邦語文献を中心に収集した。諸雑誌の購読も継続している。

## 7. その他

[後援事業]

- 日本フェミニスト経済学会 2020年度大会

「相談支援」という労働——公的ケアの搾取と非正規化」

(2020年9月13日 オンライン開催 大会本部：お茶の水女子大学)

- Broken Rainbow-japan

「アウトリーチ活動報告会：性的マイノリティ性暴力サバイバーに安全・安心な場所づくりのために」

(2021年3月25日 オンライン開催)

## [女性学研究センター研究員の活動]

- 大阪府男女共同参画施策に関わる市町村職員のための研修プログラム  
(STEP II)  
(2020年10月7日)  
講師：田間泰子
- なでケア×ユニセフ 子ども応援企画 学ぼう、権利！ なくそう、セクハラ！ 「スポーツにおけるセクシュアル・ハラスメントを知ろう——安全なスポーツ環境のために」  
(2020年11月2日 オンライン録画)  
講師：熊安貴美江
- モアいずみ（和泉市男女共同参画センター）令和2年度男女共同参画社会づくり講座「スポーツとジェンダー——女性スポーツの今」  
(2020年11月24日 オンライン中継)  
講師：熊安貴美江
- 一般財団法人大阪府人権協会人権問題総合講座「さまざまな人権 家族問題について」  
(2020年12月16日 オンライン開催)  
講師：田間泰子
- 堺市男女共同参画に関する市民意識・実態調査監修等業務  
担当：伊田久美子（学外研究員）

\* \* \*

今年度も引き続き世界的に新型コロナウイルス感染拡散が止まらない事態となり、本学においても大学主催事業の原則中止または延期の要請が為されることになりました。このため大変残念なことに、一つの予定事業を中止せざるをえませんでした。しかし、それ以外の予定事業については、Zoomを利用することにより無事終了することができました。普段とはずいぶん異なった開催方法でしたが、遠方からもたくさんの方が参加してくださり、新たな可能性を感じられる試みとなりました。みなさまのご協力に心より感謝申し上げます。

前年度に引き続き、女性学・ジェンダー研究の推進による男女共同参画社会

の実現をめざす活動に、学内外の諸機関等と連携しながら取り組んでまいりました。女性学講演会では、内藤葉子准教授および伊藤良子講師のコーディネーターで「性暴力——その後を生き抜く人たちと共に」を開催いたしました。性暴力の被害者は「女性や子ども」で、「見知らぬ人からのレイプ」を思い浮かべがちですが、実際には女性のみならず男性やLGBTIQAの人々も、さまざまな関係性の中で性暴力被害を受けています。性暴力の実態や、性暴力が被害者に与える影響について、被害者支援制度や法制度の問題を提示するとともに、SOGIESC（性的指向、性自認、性表現、性的特徴）に関わらず、誰に対しても平等な支援のあり方について、4人の講演者から報告が為されました。これらの報告を通じて、性暴力は社会における差別や不公正から生じた問題であり、社会全体で意識を変革していく必要のある問題であることを再認識いたしました。

男女共同参画事業では、大阪市立大学人権問題研究センター、アジア・太平洋人権情報センター（ヒューライツ大阪）との共催でシンポジウム「性暴力をめぐる理解の「歪み」を問い直す」を開催いたしました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため延期になっていた昨年度の事業ですが、Zoomを利用することにより無事開催の運びとなりました。二人の講師のご報告から、日本社会における性暴力をめぐる現実とその解釈がどのような「歪み」をもつかを明らかにし、性暴力という人権侵害について考えるものとなりました。

女性学コロキウムとしては、村田京子名誉教授退職記念講演を対面形式で準備を進めていましたが、新型コロナウイルス感染拡大が深刻化したため残念ながら再び中止せざるをえませんでした。それ以外はZoomを利用して開催することができました。人間社会システム科学研究科人間科学分野共同研究事業「ジェンダーと共生に関する研究プロジェクト」との共催として、二人の先生よりジェンダーと共生に関するテーマで興味深いご報告をいただきました。矢野久美子フェリス女学院大学教授は、H・アーレントとC・エムケの権力や言葉をめぐる思想を手掛かりに、人と人との複数性がいかに実現しうるのかについてお話されました。児島亜紀子本学教授はポストヒューマン論とフェミニズムの接点について最新の思想的動向についてご紹介されました。当センター主催のコロキウムでは、荒木菜穂本学客員研究員が女性の分断のしくみに着目し、それらを乗り越える営みの中から多様性が担保される社会の可能性を示す

ご報告をされました。今年度最後の事業としては、退職される田間泰子教授の退職記念講演会が行われました。田間教授は長年にわたってセンターの活動および学生・院生の教育指導に貢献されてこられました。センター一同、感謝に堪えません。田間教授の今後のさらなるご活躍をお祈り申し上げます。

また、今年度から新しく木曾陽子准教授に本研究センター運営委員になっていただきました。新たなメンバーとともに、今後も気持ちを新たにセンターの活動を推進していく所存です。ご退職されるケイン・ケビン講師には長年運営委員を務めていただきました。感謝とともに、先生の今後のご活躍をお祈り申し上げます。

『女性学研究』への投稿につきましては、熊安貴美江編集委員長、児島亜紀子編集委員、宮脇幸生編集委員のもと、共同研究員のみなさまに査読のご協力をいただき、今年度も無事1本を掲載することができました。温かく厳しいご指導に感謝申し上げます。

みなさまのご協力のもと、ジェンダー研究が本学教育研究の特色のひとつであると自負しうる実績を積み重ねることができました。今後ともセンターの活動へのご注目・ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

女性学研究センター

主 任 内藤葉子

副主任 児島亜紀子